

# 第五次爆音 訴訟勝利に向け 署名にご協力を!

# 厚木爆同

【発行】  
厚木基地爆音防止期成同盟  
発行責任者 石郷岡 忠男  
事務所 大和市桜森3-5-3  
フロント1F  
TEL 046-240-7450  
FAX 046-261-5615  
bakudou@kanagawa.email.ne.jp



結審に向けてデモ行進

## 第五次爆音訴訟が結審 来春に判決(予定)

厚木基地の航空機騒音解消をめざし、周辺住民が国に夜間・早朝の飛行差し止めや計約131億円の損害賠償を求めた「第五次厚木基地爆音訴訟」の口頭弁論が11月1日 横浜地裁で開かれ、原告側が最終意見陳述を行い、結審しました。

原告は8市8,738人。W値75以上の住民が厚木基地の航空機の夜間・早朝の飛行差し止めと賠償金、そして日本政府が騒音解消に向け米国と協議することを求めています。

当日は2人の原告による意見陳述と弁護士による最終弁論が行われました。まず原告団事務局長の斎藤昌民さんが ①第二次訴訟から裁判に取り組み、40年という長い年月が流れ、それでも厚木基地の爆音被害は解消されていない現実 ②空母艦載機の岩国移駐が開示されたあと米軍ジェット機の飛行回数は減ったが、相変わらず自衛隊のP-1哨戒機や米軍と自衛



地裁前でアピール

隊のヘリコプターは連日とても多く飛んでいる ③厚木基地所属ではない他の基地の艦載機や海兵隊の戦闘機、オスプレイなどがたびたび飛来し、厚木基地は新たな使われ方をしている」と陳述し、第五次訴訟の焦点のひとつである岩国移駐後の騒音被害の評価について、被害は全く変わっていないと主張。解決には飛行差し止めの司

## 米空母横須賀母港50周年抗議 配備撤回を求める集会に参加

空母艦載機は岩国に移転しましたが、横須賀基地が空母の母港となつている限り、厚木基地で離着陸訓練が行われる懸念は消えません。

横須賀では 10月5日、「米空母母港化 50周年抗議! 原子力空母母口ナルド・レーガンの配備撤回を求め10・5全国集会」が開催され25団体、750人が参加。集会終了後、横須賀市役所近くの公園までデモ行進を行い、厚木爆同も参加しました。



判決勝利に向けてガンバロー

法判断しかない、と訴えました。二人目は中川恵理さんです。中川さんのお父さんは、厚木爆同の発祥となった自治会で厚木爆同委員長であった真屋求さんと知り合いです。第1次の訴訟に向けて原告集めに尽力した方です。

中川さん自身も大和へ引っ越して以来、就職のため実家を離れた10年間を除く43年間、24時間 365日ずっとこの爆音と墜落の不安の中で過ごし、部品落下の恐怖、PFAS(有機フッ素化合物)な

主催は、神奈川県平和運動センターほか4団体。

空母母港化抗議の集会は例年行われていますが、今年は50周年ということで全国集会となり、近隣各県の労働組合や平和団体などが参加しました。

石郷岡忠男委員長は連帯と激励の挨拶を行い、機能強化やオスプレイの飛来、PFASなどの環境委汚染で厚木基地の住民被害が広がっていることを報告。第五次爆音訴訟

ど環境汚染にもさらされていると陳述をしました。

最後に「どうか飛行差し止めという判断をお願いします」と訴えました。

弁護士による最終弁論では、「厚木基地の不適地性」「原告の被害の実情」「第三者行為論の不当性」「軍用基地における騒音の過小評価」「第五次厚木爆音訴訟における司法の役割への期待」等について訴えました。

その中で、国が示している騒音の評価方式では、軍用機騒音が住民に与える影響を著しく過小評価していると主張。国際的な評価指標をもとに、住民の不快反応などを分析した横浜国大名誉教授田村明弘先生の証言を踏まえ、岩国移駐後も騒音被害は解消されておらず、睡眠妨害や健康被害など人権侵害が続いていると訴えました。

そして、原告らが本件訴訟で裁判所に訴えたいことは、すべての



横須賀基地正門前で

が勝利するよう、支持を訴えました。

デモ行進では「厚木基地撤去」「沖縄と連帯し、辺野古新基地建設絶対反対」「オスプレイの配備反対」も訴えました。

**第五次厚木基地の爆音  
訴訟の勝利を求める  
署名にご協力を**

厚木爆同と第五次厚木基地爆音訴訟原告団では訴訟勝利に向けて「厚木基地の爆音をなくし飛行差し止め判決を求める署名」を横浜地裁に提出し、住民の声を訴えます。

署名用紙と返信用の封筒を、今号の会報におこみしました。

最終集約は来年の1月31日です。署名のご協力をお願いします。

**と支援  
ありがとうございました**

海老名市議会議員選挙  
(11月12日)  
推薦候補当選者  
**たち 登志子さん**  
(2期)

海老名支部所属

**訃報**

支部長や情宣部長を担い、爆音解消のために先頭に立って闘っていらした、綾瀬支部長の貝津正孝さんが11月2日、74歳でお亡くなりになりました。

これまでの活動に感謝し、謹んでご冥福をお祈りします。

# 厚木爆同基地視察 横浜ノースドックと陸軍登戸研究所資料館

今回の「基地視察」は「横浜ノースドック」を大棧橋から見学するとともに、第二次世界大戦で細菌研究や風船爆弾の研究をしていた「陸軍登戸研究所資料館」に行きました。

## 横浜ノースドック

10月18日(水)、7時半に大和駅前をバスで出発。8時半に大棧橋到着。「横浜ノースドック」で監視行動をしているリムピース編集部星野潔さんから詳しい資料をいただき、説明を受けました。「横浜ノースドック」は横浜港の真ん中にある米軍専用埠頭。ベイブリッジをくぐり、まっすぐに接岸できる、港内でも絶好の位置にあります。在日米陸軍管理本部下にある第836米陸軍輸送大隊、在日米海軍横須賀補給センター、日本区域艦船支援隊等が使用しています。陸上自衛隊も一部を使用。面積は横浜スタジアムが20個入る大きさです。



大棧橋から横浜ノースドックを望む

今年の1月11日、日米2プラス2(外務・防衛担当閣僚会合)で「横浜ノースドック」に「13隻及び約280名」で構成される米陸軍の「小型揚陸艇部隊」を令和5年頃迄に新編成すると合意発表しました。南西諸島への物資輸送のために、部隊強化が進んでいます。

ノースドックが南西諸島と直結した戦争遂行の拠点としての機能を持つことは横浜市ばかりでなく、神奈川県全体にとっても、地域と住民が米軍の戦争遂行態勢に組み込まれることを意味し、その影響の大きさと危険性は測り知れません。



陸軍登戸研究所資料館

## 陸軍登戸研究所資料館

その後私達は、11時に明治大学生田キャンパス正門に到着。農学部が作られた有機野菜の買物や構内の書店で本を購入。予約してある明治大学の学生食堂で昼食。予想していたより多くの量のサラダ付きの定食を、全員でいただきました。

休憩をはさんで12時半より「陸軍登戸研究所資料館」を見学しました。今回初めての人であれば、数回展示を見た人も、学芸員の方に展示品の説明してもらいました。



陸軍登戸研究所資料館で説明を受ける

「陸軍登戸研究所」は細菌兵器や風船爆弾、諜報機器などの研究を行っており、アジア太平洋戦争中は軍から重要視された研究所でしたが、敗戦とともに閉鎖されました。自らの戦争体験について長い間口を閉ざしていた元関係者が沈黙を破る最大の契機は、高校生たちとの触れ合いがありました。

## 厚木爆同基地視察に参加して

横浜ノースドックと陸軍登戸研究所は以前から興味のある場所でした。横浜ノースドックについては、今年1月に突然揚陸艇部隊配備が発表され、横浜が戦争の拠点になるのではと反対、撤去の運動が起きていることはニュースや新聞で知っていました。その基地が大型客船も停泊する大棧橋の正面にあり、ベイブリッジや赤レンガ倉庫など有名な観光地のすぐ近くに

あることにはびっくりしました。さらには、既に民間ドックで大型艦船の修理をしたり、民間埠頭で軍事物資の積み下ろしを行っているという事実と発表されたものだと知り、その思いに胸をうたれました。

「今の若者に私の息子に、あの時の厭な思いは決して経験させてはならない。私達の過去が平和のために少しでも役立つ事ならば、どこまでも協力させていただきます」といった声が出てくるようになり、今まで口を閉ざしていた人達が「陸軍登戸研究所保存と資料館設置を明治大学に要望していきます」と動き出しました。「陸軍登戸研究所」に関わったすべての人達の思いが資料館として結実しました。資料館の室内見学が終わり、「薬品庫」「消火栓」「動物慰霊碑」の順に、面影を残す屋外の史跡を案内していただきました。

## 「156V10」に県に要望書を提出

厚木爆同が組織参加している「いのくら(県民のいのちとくらしを守る共同行動委員会)」では毎年、神奈川県と国に私達の要求書を提出しています。「いのくら」では4部会に分かれて活動しており、厚木爆同は相模補給廠監視団、非核市民運動ヨコスカ、神奈川県平和運動センター等と共に基地部会に入っています。

今年、6月に基地部会でまとめた要望書を県に提出。県から来た文書回答に対して10月17日に基地部会を開催。再要求(再質問)を出し、11月17日に県の基地対策課と交渉を行いました。その後各部会とも最重点要求を1点に絞り、12月19日に副知事交渉を行いました。

## 厚木爆同会員の声

(会員のみなさんの声を募集します。厚木爆同との関わり、厚木基地への意見をお寄せください。)

厚木爆同としては、基地の縮小や返還に向けて騒音、部品落下、基地の新たな使用・機能強化、共同訓練による拠点化、PFAS汚染などの問題について、基地周辺住民が安心して暮らせる環境を求める要望書を提出しました。

# 各支部の活動

厚木爆同では支部会議や班長会議を開催して、組織強化のために話し合ってもらおうようにしています。9月、10月に開催した各支部会議などを紹介します。

## 綾瀬支部会議

9月17日(日)、中央公民館視聴覚室で8人の支部会員と本部から書記長、総務組織部長が出席して、支部会議を開催しました。

綾瀬支部では12班ある。班によっては、会報配布はするが集金は副支部長がやっているところがある。・高齢で、班長を替わってほしいという人や、厚木爆同をやめると言う人がいる。・会員拡大をするのに、理解のある人に働きかけてはどうか。ほか。



綾瀬支部会議

## 海老名支部会議

10月11日(水) 委員長、副委員長参加のもと、支部会議を開きました。主な議題は、夏の映画会再開の件と11月の市議員選挙でした。

曾我昌三さんに黙祷をささげました。海老名支部は1988年以来32年間毎夏、市内を巡回する平和映画会を開催してきましたが、2020年以降コロナ禍で中止になっていました。中止前は市内のコミセンを中心に十余か所で開催していましたが、とりあえず来年は数か所で上映することを確認しました。

本部からNHKの受信料問題で、請求書が来たら厚木爆同に連絡してほしい。コンター見直しで、防音工事の対象地域が基地の周辺1kmくらいに縮小されそう。見直しは中止または延期にしたいなどの提起を受けて、支部の現状や課題などを出し合いました。支部会員からは、次の声が上がりました。

## 大和中支部班長会議



大和中支部班長会議

10月15日(日)に上草柳コミセン会場に、委員長参加のもと、中支部13班のうち9人の班長さんが出席して大和中支部の班長会議を開催。

「今後の班長業務の課題と対策」をテーマに、総務組織部長より問題提起を受けて話し合いました。集金業務については今後振り込みという選択もあるという組織部長からの提起もあり

ましたが、出席の班長さんからは「1年に1回の会員さんとの顔合わせは安否確認も含め大切にしたいので、集金は今まで通りで行いたい」との意見や「振込になると郵便局や銀行に足を運ぶ必要があり、会費の納入が減る可能性がある」などの意見があり、この会議に出席した班長さん全員が今まで通りの形で、という結論になりました。今回体調不良で欠席した4人の班長さんは集金に回るのが厳しい方もいるかもしれないので、さらに聞き取りをすることが確認されました。とりあえず来年度は、特に変更することなく、集金業務や会報配布を続けていくことになりました。

## 相模原支部会議

10月22日(日)、相模大野ユニコムプラザ会議室で相模原支部会議を開催しました。支部から7名、本部から委員長と総務組織部長が参加し、支部活動の強化について話し合いました。

相模原支部では毎月、本部執行委員経験者による支部幹事会を開いていますが、会員全体のものにはなっておらず、その改善も課題としました。現状は厚木爆同単独の支部活動には限界があり、訴訟団の支部や金子市議後援会との共同で行われることが多いとありました。このため厚木爆同運動と重なる部分もありながら、より幅広い運動にもかかわってききました。厚木基地抗議、原水禁運動、裁判闘争など、活動範囲に違いはありますが、平和運動という点では共通しています。

相模原支部の組織強化については現状を維持しつつ、改善を図るといふことと、今後も課題を追求することと

## 藤沢支部学習会

厚木爆同第五次原告団藤沢茅ヶ崎支部が主催して10月28日(日)、学習会を行いました。被害者にも、加害者にもならないために！『市民生活と軍事基地』を開催。約30名が参加しました。



藤沢支部学習会

## 町田支部会議

町田支部は9月16日(土)、新部長の下で委員長、書記長が参加して支部会議を開催しました。

## 座間支部班長会議

座間支部は8月8日(火)、班長会議を開催しました。前回の会報に掲載。

## NHK神奈川西営業センターに要請

10月26日、NHK神奈川西営業所に要請行動を行いました。要請の内容は次のとおりです。

- ① 難視聴区域の解消を共に運動しましょう
- ② 受信料に関わる訪問や電話かけを行わない
- ③ 悪質な訪問員への指導と資質向上に取り組むこと、です。

## 反核・平和の火リレーを8箇所で開催



反核・平和の火リレー

平和を願う青年たちは毎年、反核・平和の火を掲げて県内をリレーして走り、各自治体に反核・平和を訴えています。厚木爆同では10月24

日と25日、27日に県央五市と藤沢市の市役所と基地の前で、委員長や役員、厚木爆同議員団の議員などが出迎えて、激励と連帯の挨拶を行いました。

# オスプレイが相次いで飛来

## — 厚木基地の現状 —

厚木基地では最近、欠陥機として墜落の危険があるオスプレイ輸送機が相次いで飛来しています。

9月15日、厚木基地に隣接する日本飛行機で昨年2月に整備を始めた1機目が、空中で停止した状態で行うホバリングチェックや試験飛行を実施。

大和市と綾瀬市は、騒

音・安全対策の徹底や情報提供などを口頭で求めたほか、海上で試験飛行するよう申し入れました。

9月21日、定期機体整備が完了したMV22オスプレイが普天間基地に帰還するため厚木基地を離陸。数時間後に奄美空港に緊急着陸。墜落の不安を掻き立てました。

9月25日、整備点検のため3機目のMV22オスプレイが厚木基地に飛来。墜落の危険が最も高いといわれている飛行モードとヘリモードの変換を基



オーストラリア軍P-8哨戒機

海上自衛隊は11月10日から20日まで、日本周辺海域および空域で「実動演習（共同演習）」を行っていました。

この共同演習は対潜水艦戦、対水上戦を想定した各種戦術訓練と洋上補給の演習を行うもので、海自とアメリカ海軍、オーストラリア海軍、カナダ海軍が参加。

同演習に参加するオーストラリア空軍のP-8A哨戒機1機とカナダ空軍のC-140哨戒機1機が、機体整備などのために厚木基地を使用。

爆音が激しくなるだけでなく、戦争になれば厚木基地が攻撃される事も考えられます。

厚木基地の機能強化反対、基地撤去の声を強めましょう。

# 目米豪加共同訓練で オーストラリア・カナダ軍機が飛来

10月24日、海上自衛隊厚木基地所属のP-1哨戒機がまたもや部品落下事故を起こしました。飛行中に落下したかと思われませんが、どこで落としたかは不明です。

自衛隊の発表によれば、部品は直径7ミリ、重さ1グラムとのこと。高い高度からの落下では加速度がつき、直接人体に当たれば重大な事故になりかねません。

自衛隊機は7月にP-3C哨戒機が部品落下事故を起こしたばかり。安全面より即応性を優先する軍用機の運用に、怒りを覚えます。

# 自衛隊機 続く 部品落下

# 厚木基地を飛行する航空機の 目視調査と騒音調査を実施

政府・防衛省が米空母艦載機の岩国基地移転で騒音が減少したとして、コンターの縮小さえ画策する中で、今年も基地周辺の軍用機の飛行や騒音の実態を把握するための調査を、上草柳8丁目の「緑の広場」で行いました。

11月6日(月)から10日(金)までの5日間、午前10時から午後4時まで、厚木爆同と第五次訴訟原告団の役員延べ30人が、二人一組・一日三交代で騒音測定と航空機の目視調査を実施しました。

今回の調査でも第五次訴訟での田村証言の通り、軍用機の騒音は通常の騒音測定の数値では収まりきらない、不快かつ深刻な影響を引き起こすことを実感しました。

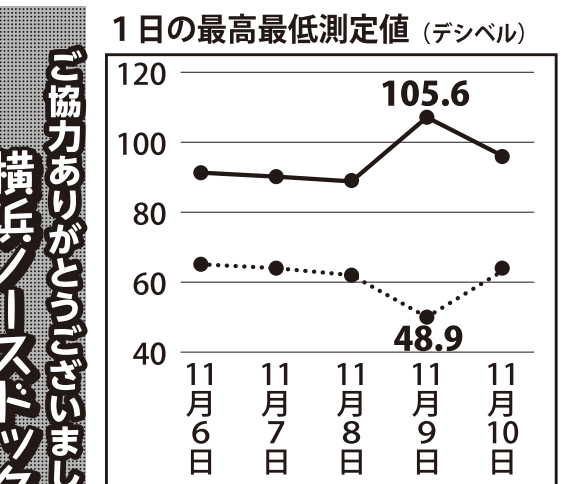


民家の上を飛ぶオスプレイ

地内で行うという約束を破って、住宅地の上空で行いました。

10月、11月も相変わらず飛来しています。

何ともしも、オスプレイの飛来を止めなくてはなりません。



この期間は風の影響で、基地の南側から発着する航空機が多いようでした。特徴的なのは、オスプレイが3回飛行したこと。目米豪加の合同演習があったために、カナダ軍機が目視されたことです。

全測定回数は135回。そのうちP-1哨戒機が35回と一番多く、次にP-8が15回と続きます。

2分から10分間隔で連続して飛んでくる時間が1時間以上続く日が、3日もありました。70デシベル以上の軍用機音が1時間以上も連続してあると、相当にうるさく感じます。

## 1回の最多連続飛行回数

※連続飛行とは2～10分間隔で連続して飛行した回数

曜日	月日	連続飛行1回の最多飛行回数	機種	時間帯	1日の内の最長連続飛行時間	1日に連続飛行があった回数	1日の騒音測定回数
月	11月6日	15	P-1	14:37~15:56	1時間19分	4	29
火	11月7日	8	P-1	13:43~14:18	35分	3	22
水	11月8日	19	P-1 LC-90 P-3C	13:14~14:33	1時間19分	3	39
木	11月9日	7	C-12J	14:54~15:20	26分	2	27
金	11月10日	12	P-8	12:14~13:29	1時間15分	1	16

# 協力ありがとうございました 横浜ノースドック署名の報告とお礼

横浜ノースドックへのご協力、ありがとうございます。

横濱ノースドックを戦争遂行拠点にさせないという署名にこめた意思を、さらに横浜港から基地を撤去させるための声や行動につなげていければ何よりです。



横浜ノースドックは頻繁に使われている